

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号 4 1 4

発生場所	ホルムアルデヒド 作業環境場所（手	精神・意識障害の有無	リスク B. 物の性能のリスク C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク E. スタッフが作業する上での環境上のリスク
発生場所（その他）			
関連したもの	発生内容の分類 その他		

発生内容

2014年に新病院建築時、手術室の標本作製室に大型換気口（陰圧）を設置したが、それだけでは作業環境時のホルムアルデヒド濃度が0.1ppm以下にならなかった。
（ホルムアルデヒド作業環境 適正濃度：0.1ppm以下）

概要

標本作製室では、標本（臓器）が発生時に、プラスチック容器にホルムアルデヒドを入れる作業がある。この作業時のホルムアルデヒド濃度が0.44ppmに測定された。

要因

大型換気口の前でホルムアルデヒドを取り扱っているが、大型換気口だけでは、ホルムアルデヒドガスが十分に吸引することができていない（介入前の写真参照）。

対策

大型換気口にホルムアルデヒドガスが吸引できるように、空気の流れをつくった（介入後の写真参照）。写真のように空気の流れができてからは、作業環境測定結果は、0.1ppm以下となり問題は改善された。

参照

介入前



介入後

